

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	平成25年1月16日(火) 9:00~10:40
会 場	市役所本庁舎2階会議室
出席委員	天羽 浩委員、澤井将美委員、鈴木聡士委員、湯川恵子委員、桂 裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	岩泉功一企画財政部長 【政策調整課】川村裕樹課長、志村 敦主査、河合真実主任 【行政推進課】川口昭広課長、大原秀紀主査、杉山正一主査

1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、委員が成立していること」を確認した。

2. 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、天羽委員を第3回推進計画委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

3. 連絡事項

【連絡事項】委員から提出のあった提言シートに対する回答について事務局から、資料に沿って説明。
事前に委員から提出されていた質疑に対し、回答を提示した。

4. 議事

【議案1】子育て支援・人づくりプロジェクトについて

事務局から、検討資料について説明した後、下記のとおり検討を行う。
各委員からの意見を受け、次回引き続き検討することとなった。

○委員長 シルバー子育てサポート事業ではサポーターの登録が少ないようだが、増加させるためにはどんな方法が良いか、考えられる原因、改善方策を、手ごたえ、感想を含めて教えて頂きたい。

○事務局 シルバー子育てサポートは、年に2回、サポーターの募集をかけており、実際の利用者には好評を得ているが、サポーターの増員については金銭的か時間的な問題が原因なのか具体的には分析しきれていない。総合計画推進委員会から増員に向けての提言があったということで、募集の形態、時間、人の配置等も含めどういう展開をしていくか詰めて行きたいと思う。
また、シルバー子育てサポートをどういう立場から見るとかというのが、

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

1つの課題であり、子供の目線から見るとシルバーも確かに一時は嬉しいが、一番来てほしいと思うのは父親世代、30代もしくは40代前半の男性というのが実態である。シルバー子育てサポートが目的としているのは、子育てをしている親に対してのアドバイスであり、その点についてどのような事業展開をしていくのかというのが重要と考えている。

またサポートに入る側から見た場合、入りすぎても、入らなくても駄目という、入り方の線引きが非常に微妙であり、担当が上手く調整する技術を身につけなければ、募集して人が集まったから良いということにはならないと思う。

○委員長 原因をどう分析して次に活かすのかということが推進であり、案を出した後、実際にどのように行っていくのかというのが大事なことだと思うので、意見が色々出ているということ、参考にして頂きたい。

○A委員 シルバーということで60歳以上に限定すると、育児に絡んだサポートをしていく上では活動的に難しいところもあり、若い方々のほうが育児に対しての補助的な対応が行動的に出来ると思う。また育児をしている方も、シルバーのグループと若いグループでは若いグループを選んでしまうというのが実際の現象だと思う。そのため例えば将来教員になるような若い方まで対象を広げて、より充実したサポートセンターを作り上げていくという事も必要ではないか。

○委員長 名前としてシルバーとついているが、大学のボランティアや、教育実習的なボランティアの部分など、少し幅を広げると言うのも、良いアイデアだと思うので、ぜひ委員会の提言の参考にして頂きたい。

○A委員 検討資料に掲載している事業以外に子育て支援・人づくりプロジェクトに類似するような事業はあるのか。類似していたり、事業ではないが経常的にやっているというようなものもあると思うので教えてほしい。それとも今回は、あくまでもこのプロジェクト事業の中の範囲内で提言していけば良いということか。

○事務局 現在当市では400本の事業があり、重点プロジェクトを設定する際には、市と外部委員会等が協議して事業を選定したが、子育てに関する事業というのは他にも行われており、これだけで、安心できる子育てを運営し

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

ているわけではない。しかし、それを全て網羅して整理していくということになると、基本的には全ての事業を洗い直すことになってしまう。

他にどういった事業を展開しているかについて事業名を拾うのは簡単だが、それを逐一議論するとなるとそれだけで時間がかかってしまうため、ある程度絞り込んだ形で別な資料を作成してお渡ししたい。

事業の構成に関しては、今回の委員会では事業を追加していくというところまで踏み込むものではなく、まずこれを土台に来年以降に向けて上手く展開出来ればというスタンスでお願いしたい。

○委員長 資料をどのようにまとめるかという話と、議論を深めるという話があるが、資料をまとめる上では、情報が膨大過ぎると逆にぼやけてしまうので、焦点を絞るためには取捨選択も仕方ないと思う。しかし、議論する上では、ある程度情報が必要な部分はあるので、ぜひ積極的に情報は開示して頂きたい。また、資料にある現在取り組んでいる事業というのは主な事業であって、これが全てではないことが判るような表現にしておいた方が良くと思う。

○B委員 保育所や幼稚園といった制度的なものから家庭での子育てについてまで、どの程度の経費を投入して施策を展開していたのかをお聞きしたい。北広島市は、児童・幼児一人当たりどの程度の経費を投入していて、全道・全国的にどの程度のレベルなのか。余裕があるのかどうか。また、どの市町村も財源づくりに困っている部分があると思うので、その点についての努力など情報を頂きたい。

○事務局 経費について他市と比較し、例えばどの順位にあるかということや、公開の仕方等も含めて整理し、どういった情報を提供できるか検討したい。単純に幼稚園と保育園の比較というのも支出合計を出すことは可能だが、人件費が入ると大きな差になるため、もう少し検討したい。

○B委員 公立幼稚園を設立していないことは財政的にメリットがあり、幼稚園にかかる経費の支出がないため、その分をほかの施策にまわせないのかと考えていた。財政的に厳しい市ではないので、まだ子育てにまわせる財源があるのではないかと感じ、1人当たりの投入市費について聞きたいと思っている。

○委員長 他市との比較は、都市の規模や札幌との位置関係によって、役割等が

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

全く変わってくるので非常に難しい。数字だけを出すことは出来るが、それが一人歩きするのは危険だという部分もある。しかし、公表する資料と、提言を考えるうえでの参考資料としてかの位置付けは、全く別だと思うので、可能であれば参考資料の作成を検討して頂きたい。

○A委員 学校図書整備事業で学校間及び図書館とのネットワークシステムの構築とあるが、既に出来上がって運用されているということか。従来はできていないという話だったが。

○事務局 ネットワークシステムはできており、市立図書館に学校図書の本部を置いて実施している。

○A委員 各小中学校の図書館から中央図書館に依頼があれば、自動的に本を配布するようなシステムも合わせて行われているという理解でよいか。それとも単なるデータベースだけのものか。

○事務局 現在、データベース上のシステムは繋がっているが、各学校間の貸し借り等は出来ていない。そのため事務事業評価では、せつかくシステムがあるなら対応していくべきという評価になっており、検討させている状況である。

○A委員 重点プロジェクトの事業なので、早急にやるような対策が必要だという提言をさせて頂きたい。

○事務局 今の意見を提言として担当課に伝えたいと思う。

○委員長 予算的な部分も含め理由はあると思うが、上手くいっていない理由も含めて検討頂きたい。

○事務局 来年度予算の調整の際、より効率的な事業運営ができるという目的でシステムを導入したにもかかわらず、それができておらず、来年からやらなければ、蔵書の購入は認めないというところまで話が出たところであり、来年度は進めていきたいと思う。

○委員長 特にこの委員会から強い意見が出たというのも、バックボーンにして頂ければと思う。

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

- A委員 図書を購入するだけでなく、市民から図書の寄付を受けて上手く活用するようなシステムができれば、市の支出も少なくなると思う。特に団地の住民は高齢化しており、相当な書物を持っていて、かつ、それがそのまま埋もれてしまっているようなケースもあるかと思う。必要としている書籍を周知して寄付を依頼し、中央図書館や各学校の図書の充実を図っていくようなことを検討はできないか。
- 事務局 現在、直接市で蔵書の寄付を受け付けることはしていないが、市民同士で本を持ち寄って自由に交換してもらおうイベントは行っている。市の蔵書を充足させるような形で、市民からの寄付を頂くということについては、専門的な考えもあると思うので、担当課に伝える。
- 委員長 非常に良いアイデアだと思う。ただ、何を求めているかということが最初にないと大変な状況になると思うので、実現可能性について実際に上手くマッチングさせるかということも含め、検討して頂きたい。
- C委員 健やかな子どもの教育について、私の場合、小学生の子どももいることから、教育というと中学校受験があるため塾というのが一番になっている。しかし、ここで言う教育とは、受験勉強などの学習というよりは人格形成等と言った意味合いなのかということを確認したい。
- また、塾に通いながら地域のスポーツ少年団にも参加しており、人格形成という意味合いからも、小学校の比重というのは非常に低い。周りの小学生を持つ多くの家族は、教育という言葉の上では塾が大きく、この提言案は、そういう家庭にとってはピンと来ないのではないかと思う。その実情をここに反映させるというのは、義務教育を前提としているため難しいのかもしれないが、世の中のニーズとは合っていないと感じる。
- 事務局 ここではどちらかというと、安心して教育を受けることができる、学校に通うことができ、青少年育成の面で地域が見守る等に重点を置いた構成になっており、全てが学力向上を目指すための教育の展開ではない。
- 今のお話のような現象は確かに起きており、その意味では人格的な部分等が、実際、市民生活にあてはまるような事案なのかということ、異なるところはあるのかもしれない。ただ、教育に関する事業というのもこれだけではないので、整理して資料としてお見せしたい。その中でここに盛り込むべきというものについては、まとめていきたいと思う。

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

- 委員長　　これは難しい話で、シビルミニマムとして公的機関がどこまでやるかという部分と、やりすぎると今度は特徴がなくなるため、どこに特徴を出すかという2つの議論ができる部分だと思う。
- 総合計画はある程度公的なものであり、シビルミニマムのどこまで行くかというふうにならざるを得ない部分で、どういうところで上手く他の市にはないような部分を出せるか、というようなところを意識しながらまとめて頂きたい。
- A委員　　検討資料の提言にある小中一貫校の開設は、具体的に検討されているのか。
- 事務局　　総合計画書の教育環境の整備という中で、2学期制と小中一貫校についての新しい教育システムについて提起しており、教育委員会では実施に向けた具体的な議論まではしていないが、意識はしているということで掲載している。
- 健やかという言葉からは、青少年児童の健全育成という部分が大きな比重を占めていると考えており、小中一貫校に限らず、特定科目の重点授業や、スポーツ種目の重点実施等も含めた中で検討していくのはどうかということで列挙している。
- A委員　　いきいきとした人づくりにおける事業は、団体に対して事業活動をする上での支援・補助や給付がほとんどで、人権尊重、男女共同参画等の事業を展開すると言ってはいるが、市民任せという感じもしないわけではない。
- 事務局　　検討資料に掲載している事業のうち7～8割は、補助・助成といった活動の支援という形となっている。生涯学習分野は元々職員を配置して実施していた事業を、できるだけ市民主体の事業支援にシフトしていくという流れでほとんどが切り替わってきている状況である。
- D委員　　市民が学び合うとあるが、市民同士が先生・生徒になって学び合う事業や、その事業に対して資金的な援助をすることはあるのか。
- 事務局　　生涯学習市民活動団体支援事業は、市民の方が企画立案・実施する事業についての補助や支援であり、有名な方をはじめ市民が講師となるケースもある。また、各地区に生涯学習振興会があり、地域住民が講師となって運営するというケースもある。

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

○D委員 私ボランティアで関わった例をあげると、札幌市でも実施しているが、高齢者や退職して時間の余裕ができた方で、様々な能力を現場で発揮されていた方などプロではないが人に教えられるくらいの能力を持っている方に人材バンクのようなものに登録をして頂き、講習料・講師謝金は無料で材料費は参加者持ちというような事業が好評だったので運営してはどうか。

カルチャーセンターなど高額なお金を出さず、大学の公開講座のように無料で行うと地域の高齢者の方も来るし、奥さん、お母さんなど結構関心も高い。

気軽に市民同士のつながりを持てるようなもの、大掛かりなコンサートや、著名人を呼ぶことができる人は限られているが、自分は小さなまちの先生くらいにならなれるという人を東ね、かつ、学びたい人が学び合えるような機会と場所を提供できるような事業を展開することで、世代間の連携や子育ての悩みを相談できる場にもなるのではないのか。

○委員長 かなり面白いアイデアで、いい意味で盛り込んでいけるものだと思うので、具体的提言にぜひ取り込んで頂きたい。

○事務局 市民講師が市民に教えるという学習活動の展開として、人材登録バンク制度は以前から実施しており、学習した方々が集い、サークルやNPOに発展した事例もある。

近年は学校支援地域本部事業の一環として、学校からの依頼により市民講師が学校授業などで講師として活躍している状況で、先の意見にあったように、教員試験にまだ合格していない方々も講師となってもらうことも、意見として盛り込むなど、人材バンクの活用については、これからも研究していきたい。

○B委員 小学校の学校統合があつたが、空き教室などを市民が先生になるような場として活用する展開はしているのか。また将来そういう展開はあるか。

○事務局 団地の小学校4校が2校に統合され、旧緑陽小学校は社会福祉法人に市が無償で貸し付け、高齢者福祉施設の事業を展開すると同時に、地域の方が使える交流スペース・活動室をその事業者に設けてもらうこととしており、新年度に工事が始まることになっている。

旧広葉小学校は市が複合型コミュニティセンターとして位置付け、児童館、市の歴史遺産等を展示するエコミュージアム・コアセンター、学童クラブ、高齢者の生きがいデイサービス、地域の方が使える交流スペースな

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

どを整備しており、防音室を備えた音楽を流せるようなスタイル等、今までにないような形で教室を改造して、地域の方、また市外の方を含めて使っていただきたいと思っている。

なお、両施設とも空き教室がない状態である。

○C委員 図書館サービスについて指定管理者の検討とあるが、具体的に検討しているのか。

○事務局 図書館については、行財政改革の絡みで窓口等の委託化を進めた結果、開館時間が伸びたなど一定程度の成果はあった。全国や道内でも指定管理者になった所はあり、そういう部分を考慮して行革も含め総合計画を進めるに当たって、もう一度ゼロベースから検討してみてもいいということである。

○C委員 図書館サービスというのは、「いきいきとした人づくり」の中でかなり大きな比重を占めると思うが、指定管理者の検討をしているという資料があれば、提示して頂きたい。

○事務局 具体的な部分は教育委員会でもまだ考えていないのが現状であり、資料はない。行革担当と担当課との間で意見が違うところがあり、少し時間がかかるという感じはしている。

○C委員 特に検討すべきであるという様子に書いてあるが、この委員会で検討すべきものではないという捉え方でよろしいか。

○事務局 指定管理のあり方をここで議論するのではなく、全国的にそういう事例もあるので今後考えてほしいという提言にまとめる方向と考えている。

○C委員 道立図書館でもかなり反対があり指定管理者は進んでいないと思う。道立図書館は非常に内容の良い図書が置いてあるが利用率はかなり低い。また北広島市の図書館は、非常に利用されているが蔵書は個人的にはあまり充実していないと感じている。指定管理者になると利用率が高まるが、人によっては使える資料がなくなってしまうというデメリットがあり、道立図書館については、指定管理者になるべきでないと思っている。

○委員長 指定管理者導入はメリット・デメリットがあるため、可能であれば議論のたたき台になるような情報提供等の準備をして頂きたい。

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

- D委員 女性の社会進出だが、女性市民の要望・相談というのは結構多いのか、それとも余りないから早いうちに議論しておこうというスタンスなのか確認したい。どの程度の要望がありそうかという感触を教えてください。
- 事務局 相談の内容については、薬の問題から生活保護など多種多様な状況があり、DVについても件数としては多いと思う。どちらかというところ札幌市での内容にかなり近く、都市化的な相談が多いと感じている。雇用関係の相談についてはほぼ皆無であり、女性のための法律相談を年に何回か行っているが、そこでもDV、離婚等の相談が多い状況である。
- D委員 生涯学習の話とも連動するが、取り立てて何か大きな問題があり、数が多いということではなければ、なおさら、女性の社会進出というのは、一足飛びには難しいと思う。女性が女性らしさを活かせるような場が提供でき、色々な問題の相談が出来るようなコミュニティが出来上がってくると、ますます女性にとって楽しい、暮らしやすい市になるのではないかと思います。
- ハード面はかなり整備されてきており、図書なども蔵書量が増えるのも良いことだが、今ある本を掘り起こして、面白さを伝えていくとか、スキルを持っている市民が友達づくりや、人に教えるということも喜びになるので、そういう場をつくっていくなどソフト面に着目した様々な提言を織り込むと、面白く住みやすい町になるのではないかと思いますので、ぜひ女性からの目線というのも考えると良いと思う。
- 委員長 非常に有意義な意見であり、ぜひ具体的提言に加えて頂きたい。
- A委員 北広島市では、時習学園などで高齢者の方々が集まって色々と勉強会を開いており、市民が独自で活動しているという点では、他の市に比べると、非常に活発だと思っている。
- ただ、そこに市がどのように関わっていくのが良いのか。市が共同で参画するなど関わっていくような形をとっていかなければ、上手くいかないのではないかと感じている。
- 事務局 市が音頭を取って立ち上げた各地区の生涯学習振興会の方と話をした中では、立ち上げの時には協力してほしいが、その後については地区に暮らしている人間が、自分の知っていることを地域の方に少しでも教えていく等の形で進んでいくことが理想ではないかという話を聞き、まさしくそのとおりだと思っている。そのため、立ち上げの時には市としての関与が必

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

要だが、それ以降については余り口出しをせず、市民の自立した組織の中でやって頂くというのが正しい方策と考えている。

○D委員 立ち上げはやはり一番難しい。スキルはあるけれどもどうしたら良いか、こういうことを教わりたいがどうしたら良いかという人達を束ねられない。

既にある小さなグループは外部からの人が入り難いという側面があるので、誰でも入りやすくするような、スタートアップの部分を担当するのは市しかないと思う。

それらが成熟してくると、それぞれが自由にやりたくなるはずなので、そこから卒業していくこととし、グループを自立的に運営していく体制が出来上がる、そのきっかけづくりの様なところで市が関わっていけると、良い仕組みになると思う。

○委員長 非常に面白い意見だと思うので、ぜひ次回も継続で検討していきたい。

○A委員 子育て支援人づくりプロジェクト事業を立ち上げるにあたって、新規事業の追加や、重点的に事業を展開するためどのように予算をつけたなど、前年度以前と比較してわかるような資料はあるのか。

○事務局 計画は平成23年度から開始しており、事業効果やお金の面も含め、事業展開をまとめたものは今のところ無い。

○A委員 今回の計画は平成23年度からだが、計画開始以前の22年度以前と比べて、どれだけ予算をつけて施策を推進しているのか教えて頂きたい。

○事務局 新規や拡大事業を予算化する際、総合計画やプロジェクトに基づいて、予算編成するので、そういう経過がわかる資料をつくりたいと思う。

○A委員 あえて3つのプロジェクト事業を作成しているので、22年度以前に比べて、これだけの予算をつけて、しっかり取り組んでいくというところが、予算的に見えているかということを確認したい。

○委員長 今日出た意見をまとめて、それを次回、またたたき台案をつくり、議論をするというのをブラッシュアップして進めていきたいと考えている。

第3回北広島市総合計画推進委員会 会議録

5. その他（次回開催日程についてなど）

第4回推進委員会は、2月13日に開催することとした。

事務局で今回質疑のあった件等について資料を作成し、次回会議までに提供することとした。

6. 閉会

会議録署名委員
